

ふるさとふちゅう

【第5回】西国街道を歩いてみませんか

再発見

西国街道は、江戸時代に東海道など五街道に次ぐ主要な公道として整備されました。京都から赤間関(現下関市)まで、山陽道・西国往還・山陽路・中国路などとも呼ばれていました。京都から東へは東海道を経て江戸へ、また下関から関門海峡を渡り小倉、長崎へとつながることから江戸と長崎を結ぶ幹線道路として重要視されました。現在、旧山陽道・近世山陽道と呼ぶ人もいますが広島県では西国街道が一般的です。

道の補修を「道普請」と言



「芸藩通志」に筆者が西国街道を点線で強調

いました。五街道の管理は幕府の道中奉行が行いましたが、西国街道は沿道の大名に任せられ、大庄屋の指示で郡中の農民が動員されました。江戸幕府は諸国の大名・旗本の監視と情勢調査のため、巡見使を派遣しました。寛永10(1633)年に巡見使を迎えるにあたり、広島藩は西国街道の整備を命じて道幅を二間半(約4・5m)とし、要所に茶屋や一里塚を置きました。海田町は旧宿場町で街道沿いの御茶屋跡・脇本陣跡・一里塚跡も明確で、街道沿いの寺社や千葉家住宅など往時の姿を見ることが出来ます。しかし、府中町では急激に都市化が進み、古い街並みや街道は改変され、その面影を見ることができません。今回から資料をもとにかつての西国街道をたどってみましょう。

まず、江戸時代の図として文政8(1825)年に刊行された『芸藩通志』の府中村絵図を見てみましょう。道は点線で描かれています。わかりやすく西国街道だけ筆者が太く描きました。文化12(1815)年の『府中村国郡志下しらべ帖』では「本往還 矢賀村境より船越村境まで十五町」と記されています。約1640mですね。図の上(南)から船越峠を越えて、現多神社方角へ進み、八幡川を前に左に大きくコースを変え、現在の府中大橋へ向かいます。当時は往還橋もしくは土橋と呼ばれていました。橋を渡ると正面に見える岩鼻(矢賀にあった巨岩)へは直線です。大須新開が開かれたのは寛文10(1670)年なので、それ以前から湿地の中、または砂州の上に踏み込まれた道があったのでしょうか。

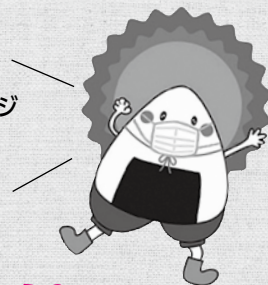
府中町文化財保護審議会委員
菅 信博

健康に役立つ
情報を紹介

朝パッ君の

耳より情報

禁煙にチャレンジ
してみよう!



喫煙と健康について考えてみませんか 世界禁煙デー・禁煙週間

5月31日(月)は世界保健機関(WHO)が定める「世界禁煙デー」、5月31日(月)～6月6日(日)は厚生労働省が定める「禁煙週間」です。禁煙デー・禁煙週間にきっかけに、喫煙と健康について考えてみませんか。

禁煙は新型コロナ対策としても有効です

WHOの報告によれば、喫煙者は非喫煙者と比較して新型コロナウイルス感染で重症化しやすいとされています。このため、WHOでも感染症対策として「禁煙」を強く推奨しています。

たばこをやめたいと思ったら?

一定の条件を満たした場合、健康保険で禁煙治療を受けることができ、禁煙を始めたときに起こりやすいイライラなどの症状が起こっても、上手く乗り越えられるようサポートしてもらえます。

◆広島県内の禁煙治療に保険が使える医療機関は、一般社団法人日本禁煙学会ホームページで確認してください。



固健康推進課 ☎286-3257